

7月の防除のポイント

令和5年6月27日
東京都病害虫防除所

主な作物の病害虫防除について、お知らせします。

<キャベツやブロッコリーなどのアブラナ科作物>

○ハイマダラノメイガ

梅雨明けからハイマダラノメイガの発生が問題となります（図1）。気付かぬうちに加害されているケースが多いので、予防が重要です。防除の決め手は、育苗期と定植初期の徹底管理です。育苗期間は防虫ネットで成虫の侵入を防ぎ、定植時には粒剤施用や灌注処理を行いましょう。なお、これらの処理が可能な作物は限られています。防除指針を参考に防除方法を選択しましょう。



図1 ハイマダラノメイガ幼虫



図2 トマトの白ぶくれ症

<施設・露地トマト>

○アザミウマ類

6月の巡回調査では白ぶくれ症（図2）が確認されており、今後もアザミウマ類の発生時期が続きます。アザミウマ類はトスポウイルスを媒介するため、防除指針を参考に適切に防除しましょう。また、近紫外線除去フィルムと防虫ネットを組み合わせた施設では、白ぶくれ症が非常に少ない傾向にあります。今後フィルムを張り替える際はこれらの資材の導入を検討しましょう。但し、ミツバチの行動やナス、紫ブロッコリー等の着色に影響することから、栽培品目によっては導入できないこともあります。

○かいよう病

一部の施設並びに露地栽培でかいよう病が発生しています。本病は土壌伝染し、病原菌は長期間土壌中に生き残ります。発生が認められたら、まん延を防ぐため発病株は早めに処分し、カスミンボルドーを散布しましょう。二次的に発病株の汁液によっても伝染しますので感染の疑いのある株の摘芽、誘引は最後に行いましょう。

○タバココナジラミ

7月から9月はタバココナジラミの発生増加期です。タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介します。トマト黄化葉巻ウイルスを保毒した虫が施設から野外に逃亡すると、近隣へのトマト黄化葉巻病の発生が助長されます。防除指針を参考に適切に防除しましょう。

<キュウリ>

○べと病及びうどんこ病

巡回調査では、施設並びに露地栽培において、中下位葉にべと病の発生が確認されました。べと病は降雨が連続すると急激にまん延します。また、うどんこ病は栽培後期に多発する傾向があります。いずれも今後拡大していく恐れがあります。初期病徴を見逃さず的確に防除しましょう。

<その他>

フェロモントラップなどでアワノメイガ発生の増加が確認されています。暑く乾燥した気候が続くと害虫の加害が増加するので、予防的な防除を心がけてください。

上記以外の病虫害についてのご相談は、電話（042-525-8236）又はEメール（S0200303@section.metro.tokyo.jp）にてお問い合わせ下さい。